



# 猪瀬都知事辞任でも 情勢は変わらない!

私たちは、今年の夏から「ぜん息医療費助成制度」の継続を求めて、患者のみなさんに都知事宛てハガキを書いてもらうために医療機関や調剤薬局を訪問して来ました。これまで、患者アンケート・知事宛て手紙・知事宛てハガキを通じて患者の声を届けて来ました。また、和解条項に基づいて実施される「制度問題懇談会」では、社会的にも大きな成果を果たしていることを確認して来ました。

しかし、12月5日の都議会でも表明された見直し案は「平成27年4月から新規認定打ち切り・都は1割助成(保健3割負担の場合患者が2割負担)」という最悪のものでした。

この後、都庁前に移動して、見直し案に対する患者の怒りの声が続々とぶつけられました。



文京支部長 向田さん

**何としても見直し案を撤回させることに全力をつくします。**

来年3月までは集中的に要請行動が組まれますが、できる限りの参加を願います。

頑張る仲間の紹介、右から、葛飾支部長 森蔵さん、文京支部 比留間さん、中野杉並支部 上野さん、世田谷支部 国師さん。



これまでの現行制度の継続を求め、新規認定打ち切り、患者2割負担という具体案に対して、患者の私たちは驚きと東京都に対する不信感を禁じ得ません。

これまで書いていたハガキの内容は、ただ「ひとこと」お願いするということではなく、患者の切実な現状が綿々と綴られていました。

患者から届けられたハガキを本当に読み、検討して出された見直し案とは思えません。

東京都がもつと患者の声を真摯に受け止め、これまで築きあげた「ぜん息医療費助成制度」が果たした効果を軽々しく扱うことのないように、もう一度ハガキを書いて届

# 都知事宛てハガキ もう一度書いてください

けたいと思います。

現在は都知事不在ですが、都政は休むことなく進められなければなりません。**患者会事務局では、新たな都知事あてハガキを印刷してありますので、年明け早々にはみなさんにお送りいたします。**

新任の都知事が決まるのを待たずに、患者の皆さんからハガキをお送りいただきたいと思っております。

患者のみなさまから、報告を読んだご意見をいただきましたかと思えます。患者会幹事・弁護士(支援)が一生懸命考えて進めています。一人でも多くの意見が反映されるように努力しております。

# 全く納得できない

二千人を超える患者のみなさんから寄せられたハガキに綴られた思いを、どのように受け止めているのか、怒りを覚えます。

◇ぜん息は治らない病気、助成継続が必要!

◇現在も新たに発症する患者がいるのに、新規認定を打ち切るの?

◇国や自動車メーカーとの財源拠出についての話し合いが途中なのに、なぜこのような表明をするのか!

◇患者からの意見を聞くという約束だったのに、なぜ?

**東京都に責任を果たさせるために、やばいできるのは患者の思いを伝えること**

12月9日(月)には、都議会すべての会派に協力を要請しました。

12月11日(水) 12時から、トヨタ東京本社前



トヨタ前での座り込み行動 久しぶり、懐かしいの声も!

東京都には怒りを覚えます。一生懸命活動した患者ほど、裏切られた思いです。寒い時期でもあり、患者には辛い行動ですが、都庁前で思いを伝えるために頑張りました。

# 環境省と話し合いました

12月17日(火) 12時、環境省前で要請行動を行いました。これまで環境省には「国による新たな救済制度創設」を求めてきました。しかし、東京都から出された見直し案を受け、国に求める制度は、東京都の現行制度が基盤になるものと考えているので、今はなんとしたとしても都の制度を継続するために国からの財源拠出が必要です。



写真上の中央が菊池企画課長

寒さも一段と厳しくなりましたが、環境省前の通行人にビラを手渡し、マイクで訴えました。

13時30分からは環境省内の会議室で、さらに内容を深めた話し合いが行われました。

環境省側からは、環境保健部企画課長・保健業務室長ら5名が出席、患者会は32名の参加で狭い会議室にやっと収まりました。菊池企画課長は、



みな真剣に報告を聞く!

「公害は弱いところに害を及ぼす。環境も身体も弱いところが病む」と思っている個人の見解を述べ、東京都の制度見直しについての訴えは前回(11月21日)のことも含めてしっかり受け止めています。」と発言しました。東京都とも財源拠出について早急に話し合う予定と報告がありました。

同日の18時30分からは、あおぞら連絡会理事会が、大塚のラパスホールにて行われました。